研究構想シート

学校名	出雲市立窪田小学校
氏名	本田　喜之

A　研究主題

ふるさと窪田を愛し、学ぶ喜びを感じる子どもの育成（２年次）
～未来につながる　ふるさと教育の構築をめざして～

B　研究の目的

ふるさと窪田を愛し、学ぶ喜びを感じる子どもを育成するためには、ふるさと教育に関わる教科等のカリキュラムづくりとICT等の活用を含めた学び方をどのようにデザインしていけばよいかを明らかにしていく。

C　子どもの実態

子どもたちは、明るく素直であり、学年の枠を超えて仲が良く、地域の行事に進んで参加する児童も多い。学習に対して真剣に取り組め、指示されたことは一生懸命取り組む児童が多いという反面、自分から課題意識をもって、進んで学んだり考えたりする意欲があまり高くない。また、少人数のため人間関係が固定化されてしまい、自分の言葉で話したり意見を伝えたり（討論など）することが少ない。その結果、表現力が弱いという課題がある。

ふるさと教育については、昨年度から生活科、総合的な学習の時間を柱に、地域の「ひと・もの・こと」と関わりながら、よさや問題について追究する学習に取り組んできた。昨年度の研究の取組は、子ども達にとっても地域の「ひと・もの・こと」についてよさを再発見したり、問題を自分事として考え、解決するためにできることを実践したりするなど、大きな成果があったと言える。また、地域資源を見直すとともに新たな資源を発掘したことで、ふるさとを思う気持ちがより高まった。さらに、ふるさとのよさや課題を追究するためのツールとして、一人一台端末を活用したことは、学ぶ楽しさを感じることにつながった。

E　手立て・内容（研究仮説）

【基本仮説】
子どもたちの思いや願いを大切にしたカリキュラムや授業展開を工夫し、主体的・協働的な活動の場を教師が見極めて設定すれば、ふるさと窪田を愛し、学ぶ喜びを感じることができる子どもが育つだろう。

【具体仮説】
①　子どもたちの思いや願いをもとにして、地域の「ひと・もの・こと」を題材にした、探究的なカリキュラムを構成すれば、地域のよさや問題に気付き、ふるさとへの愛着と自己課題をもつことができるだろう。
②　ICT等を生かしながら、思考の深まりを促す手立てを仕組んでいけば、子どもたちは多面的・多角的な考えに触れながら考えを深めたり、ともに学び合うよさに気付いたりすることができるだろう。

F　検証方法

・子どもの思いの変容を見取ることができるような工夫
・子どもたちの思考の流れが分かる記録の工夫
　（ワークシート、ICT、掲示、思考ツール等）
・子どもたちが興味・関心をもち、よさや問題意識がもてる地域素材への関わり方の見直しと発掘。
・ふるさと教育（中心となる教科「生活科、総合的な学習の時間」、ICT等との関連）のカリキュラムの在り方
・主体的、協働的に関わることができる単元構成、授業展開の工夫
・目的にあったICT等の活用
・子どもたちの活動や思考の深まりを促す発問や資料提示の工夫

G　研究計画

①　昨年度の成果の継続
　・地域素材への関わり方の見直しと発掘
　・教科横断的なカリキュラムの効果
　・ICTや思考ツールの効果的な活用
②　カリキュラムの見直しと進捗状況の確認
　・全体計画
　・年間活動計画と単元配列表
　・年間指導計画
③　年３回のアンケートの実施（全児童対象）
　・5月、10月、2月
④　授業実践
　・ふるさと教育に関わる教科等で授業を行う。（本時のみの略案）
⑤　ふれあいフェスティバルでの成果発表

D　めざす子どもの姿

①地域の「ひと・もの・こと」のよさや、すばらしさに気付き、積極的に関わろうとする子ども（主体的に学習に取り組む態度）
②他者と協働しながら、学んだことを表現できる子ども（思考力・判断力・表現力）
③地域の現状から、課題を見つけ、よりよく解決していこうとする子ども（知識・技能）